

東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今なお懸命の使命遂行されている方々とご家族に心から感謝の意と敬意を表します。覺悟の殉職をされた方々に心から感謝の意と敬意を表し、哀悼の意を表します。

その崇高なる精神は私達の魂の中に永久に刻まれます。不意の被災により避難を余儀なくされた方々に心からお見舞い申し上げます。

そして無念の死を遂げられた方々に心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

次の世代にこの体験を文字にして書き残す事は残された我々の責務として以下に記します。

【自力救済の部】

一、無知は無駄・無理のもと。

(放射線、放射能とは何か、最小限の知識もなく、心定まり行動するまで時間を要した。)

放射線能については最低限必要な知識として学習し「正しくおそれる」(寺田寅彦)時代。二、横の連絡網。非常時にはタテの流れは弱く、横の流れは強い。

友人、同僚、ご近所の日頃のつきあい大事。「人生は義理、人情と恩返し。」(見城幻冬社々長)

三、常時貯水。浴槽は空にしない。(トイレ用に不可欠)

四、非常時持出し体制。モノ・金・情報(母子手帳・年金・医療保険書・免許証)の所在を確認、家族誰でも持出せるよう情報共有(我が家失格)

五、想定能力の限界の自覚。想定外の事が起つたのではなく、

想定能力を超えた事が起つたのである。自らの想定能力の見直しが必要。

【ボランティア活動の部】(ささやかな体験を通じて)

一、心身全体で。とにかく避難所に足を運ぶ。

二、避難県民に聞く。正座して聞く。傾聴する。慰問は慰聞。

三、避難県民のために考えるのではなく、自ら避難県民として聞き、考え、御用聽きをする。

四、子供の事を忘れない。学習機会を維持する。教師の方々との連携を忘れない。

(学校・教師の底力は市内校とその先生方が実証。敬意。)

五、ダメ元で被災地外の友人、知人に協力を依頼する。遠慮なく依頼する。

ブログ、ツイッター、フェイスブック、メールと何でも使う。礼状忘れ無い事。

放射線量計の早期全校配備を働きかけよう。

現在の危機管理法則は、一市町村規模の災害前提で、

今回のような広域かつ放射線被曝を前提としてはできていません。

我々自ら知識武装し、想定能力を高めて備える事がサバイバルの秘訣です。

日頃のarukkuも慢然とarukkuではなく、全身アンテナにして、

危機管理arukkuに心掛けましょう。



品川万里(まさと)

郡山市在住。金透小、郡山五中、東京大学法学部卒。郵政省に勤務し、大学教授や企業顧問を歴任。「郡山をもっと良い都市に」という強い想いを持って活動しているステキなおじさま。

品川おじさんにメールしよう!! masato@kej.biglobe.ne.jp

品川おじさんのブログ <http://banfu.at.webry.info/>

品川おじさんのツイッター kooriyamasato

[ボランティア登録 620]

